

# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 広島大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人材育成

【事業の概要】

## 教育プログラムの全体像

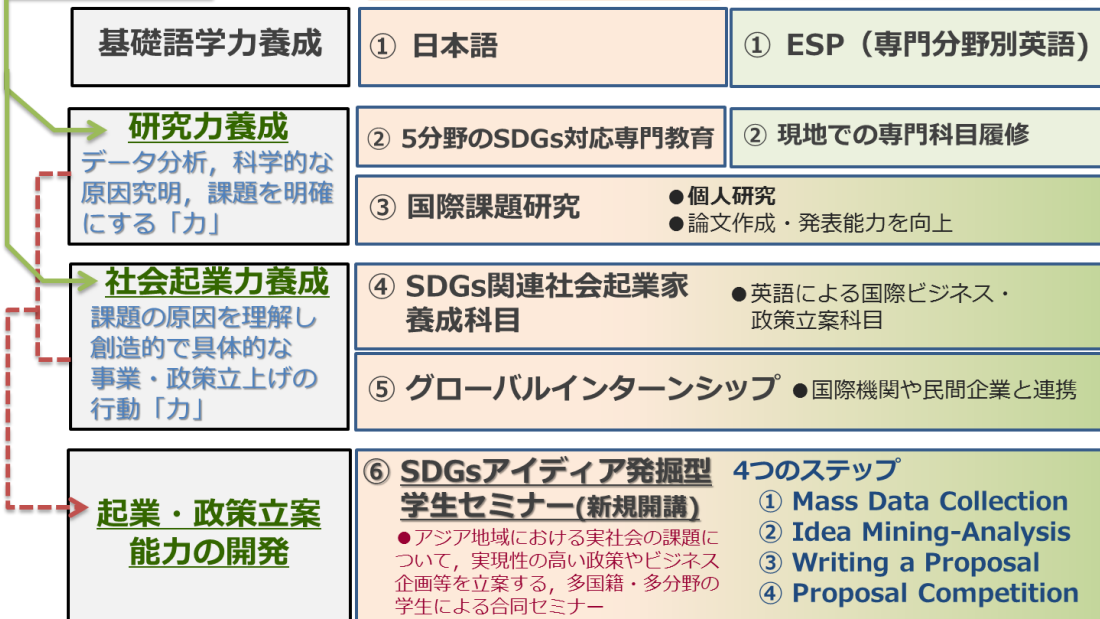
6つのタイプの英語による教育が連携して、**2つのコンピテンシー**を育む



受入学生



派遣学生



【交流プログラムの概要】

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を踏まえて、豊かで持続可能な発展を実現するため、カンボジア、ミャンマー、ベトナム、ラオス、タイにおいて、(1)「食・医療(生命インフラ)」、(2)「環境・資源(持続的発展インフラ)」、(3)「教育・雇用(人材教育インフラ)」、(4)「言語・文化(伝統・尊厳インフラ)」、(5)「国際経営・経営(経済発展インフラ)」の5領域における社会インフラ整備に貢献する人材を育成する。

【本事業で養成する人材像】

国連が掲げるSDGsに関わる概念や目標を実際の公共事業やビジネスに具体化できるコンピテンシーを育成するため、本事業では個々の学生の「研究力」、「社会起業力」の2つの能力を養成する。(1)「研究力」とは、現在ある多くのデータを分析し、科学的に原因を究明し、課題を明確にする力であり、(2)「社会企業力」とは、発見した課題の原因を十分理解した上で、様々な視点から創造的で、具体的な新規事業・政策を立ち上げ、自ら行動に移す力である。

【本事業の特徴】

<タイプB>

- ・本学が全国で初めて締結したカンボジア教育省及びミャンマー教育省高等教育局との学術交流・協力協定に基づいた現地海外拠点の開設、並びに同拠点を中心とした現地大学との学生交流の実施
- ・英語による国際経済・経営教育を長年提供してきた広島経済大学との連携による事業の実施
- ・日本、東南アジア、欧米諸国の協定大学から学生を募り、データやテキスト・マイニング的手法を用い、実現性の高い政策やビジネス企画等を立案する国際合同セミナー「PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー」の開催
- ・「研究の先行研究→デザイン→調査・実験→分析→研究ノートの執筆→研究成果の口頭発表」の段階的实施によって研究能力を総合的に養成する科目「国際課題研究」を、1ターム以上留学する学生に対して必修化

【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	0	44	50	49	50
学生の受入	15	46	49	49	49

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN) )

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人財育成

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈 PEACEプログラム キックオフ・シンポジウム 〉



〈 ドイツのミュンスター大学から講師を招いて実施した PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー 〉

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 外国人留学生の受入

本プログラムにおける学生交流の活発化、円滑化を目指し、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイの交流予定大学の学生と教員を招いて、キックオフ・シンポジウムを開催した。また、海外から参加の14名の学生と、本学及び広島経済大学から参加の日本人学生が合同で行う「PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー」を開催した。

〈タイプB〉

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	15	14

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・協定大学との単位相互認定促進のため、平成28年度は、カンボジア、ラオス、ミャンマーにおいて、現地政府や大学の助力を得て、本学が現地大学教職員向けのワークショップを実施し、本学が採用しているUCTS制度の理解促進・普及に努めた。

- ・北米で広く使用されている異文化適用に関する心理テスト(BEVI)の日本語版を本学が開発した(BEVI-j)。海外留学の客観的な成果と評価を行うことができるBEVIを、交流学生の留学の成果分析等に用いることとしている。



〈 文化体験(平和記念公園) 〉

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・カンボジア教育省内に「広島大学ーカンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター」を設置し、カンボジアにおける受入れ学生のリクルート拠点、本学からの派遣学生のサポート拠点等として整備した。

- ・ラオス、カンボジア、ミャンマーにおいて現地大学教職員向けのワークショップを開催し、国際室や学生交流プログラムの設立方法、運営方法等を説明した。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・本学のFACT SHEETの作成・提供や本プログラムのホームページの整備、プログラムの概要や学修環境、生活支援情報の交流予定大学への提供により、具体的な留学イメージを示すことができた。

- ・交流予定大学の学生、教職員を招いて開催したキックオフ・シンポジウムでは、カンボジアの高等教育局長やミャンマーの教育省事務次官をはじめ、両国の政府関係者を招へいすることで、本プログラムのスタートを広報することができた。

## ■ グッドプラクティス等

- ・「広島大学ーカンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター」の開所式では、カンボジア教育大臣やカンボジア王国駐劔特命全権大使をはじめとした政府関係者等多数の列席者に対し、国際共同や学生の流動性の促進におけるPEACE学生交流プログラムの意義を説明し、広報を行った。

- ・本プログラムにおける学生交流の開始を記念するとともにその活発化を目指してキックオフ・シンポジウムを開催した。イベント前後に、学生交流に向けて部局同士が実際に顔を合わせて協議する場・時間を設けた。